



彭飛 著

『日本人と中国人とのコミュニケーション』

(和泉書院)

著者はご存知、本学教授の彭飛先生です。『「ちょっと」はちょっと...ボン・フェイ博士の日本語の不思議』を読まれた方も多いことでしょう。本書の内容は、先生が1984年来日されてからの10年間に体験した言語にまつわる様々な事柄です。中国で生まれ育ったからこそ中国語と日本語の相違に気が付く内容には、考えさせられる点が数多くあります。先生の旺盛な知的好奇心、鋭い観察力と分析力、そして両国の橋渡しをしようとする愛情溢れる語り口に引き込まれてしまいます。外大生必読書ですよ!

810.4-Ho (T.F.)

森枝卓士 著

『世界の食文化シリーズ
ベトナム・カンボジア・ラオス・ミャンマー』

(農文協)

最近では日本でもよく見かけるようになったエスニック料理。タイ、ベトナム、カンボジア...色々種類はあるけれど、いつもとはちょっと違った側面から料理を楽しんでみてはどうでしょう。でも、どうやって? と言うときにお薦めするのがこの本です。

一皿の料理から見えてくる地域の歴史、文化、日常生活...筆者の旅の経験を通して語られる旅行記のようなこの本は、料理が鏡となってそれらを映し出していることを教えてくれるでしょう。

383.8-Seka-4 (Y.A)



藤原帰一 著

『映画のなかのアメリカ』

(朝日新聞社)

著者は国際政治学者ですが、本書の中では映画を通してアメリカ社会とアメリカ政治の実態について迫ろうとしています。内容は堅苦しいものではなく、様々な映画を取り上げてわかりやすく解説しています。例えば、2004年アメリカ大統領選挙におけるケリーとブッシュの立場の違いを、「荒野の決闘」や「大いなる西部」の底流にある民主主義の違いと対比させたり、アメリカ人の日本人観を、「ラストサムライ」や「ロスト・イン・トランスレーション」に探ったりするなど、映画評論としても大変ユニークなものです。

778.253-Fuj (F.O.)

陳敏儀 著

『ゼロから話せる広東語』

(三修社)

中国語には、標準語である北京語以外にも多くの方言があります。広東語もその一つであり、香港や広東系の華僑が暮らす地域ではよく使われています。北京語だけでなく広東語を知っていれば、それらの地域での会話に大変役立ちます。

本書では、広東語の解説が会話を中心にされており、様々な日常会話が紹介されています。また、文法やよく使われる単語も説明されていますので、広東語をまじえた中国語でのコミュニケーションの幅を広げましょう。

828.4-Chi (N.I.)